

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		誰もが暮らしやすく、誰もが地域社会の担い手になる新しい多摩ニュータウンの創造	東京都多摩市
アイデア名(注2) (公開)	みんなの縁を結び、感謝と恩を贈り合う多摩ニュータウンを創る「未知プラットフォーム」		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名(公開)	多摩市若者会議		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	35名		
代表者情報		高木 康裕	
メンバー情報	氏名(公開)	高野 義裕、保坂 有真、 高橋 菜緒、石原 瑠波	左記は主要セクションの中心メンバー 実際の活動は、多摩市若者会議実行委員 30名で分担

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### （1）アイデアの内容（公開）

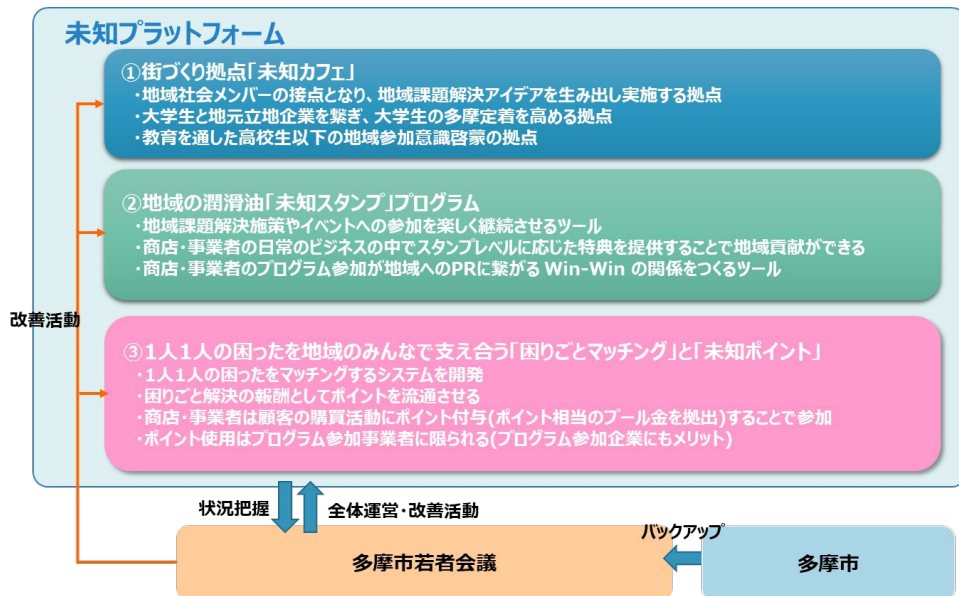
アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

- ・多摩ニュータウン地域の高齢化によって発生する様々な地域課題
- ・多摩市・多摩ニュータウン地域の若者・子育て世代の減少とその背景にある地域課題
- ・地域課題解決への行政依存

<解決アイデアの内容>

「未知プラットフォーム」と名付けた仕組み・仕掛け群をつくり、上記課題の解決を目指します。



### 【未知プラットフォームの骨子】

#### ① 「未知カフェ」による人材育成と新たな企画づくり

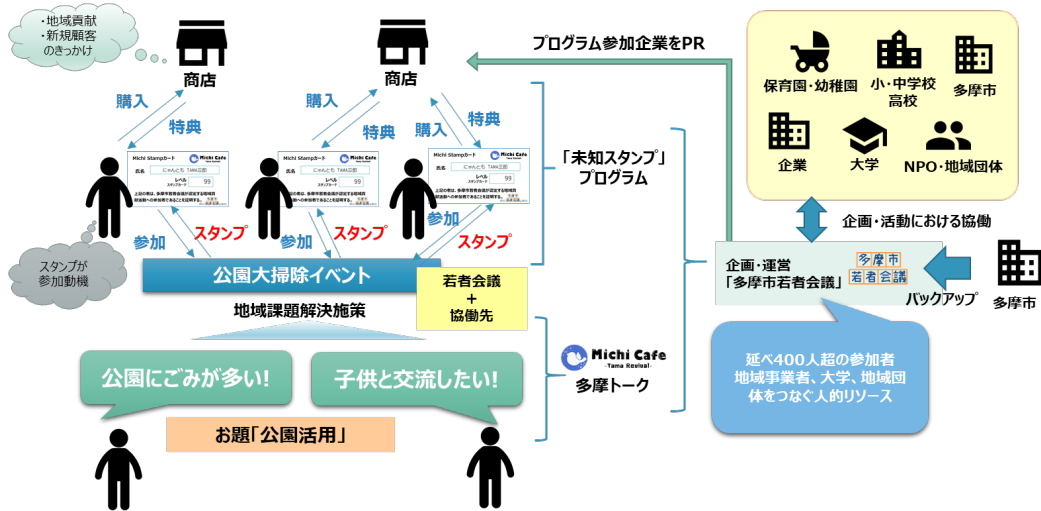
地域社会の様々なメンバーと特定のテーマについて会話する施策（「多摩トーク」と呼称）などから、既存コミュニティの枠組みの中からは生まれにくかった有機的な地域課題解決アイデアや地域を盛り上げる企画を立案・実施します。また、学生と地元立地企業・周辺企業との協働やマッチングの場を設け、卒業後も地域で活躍する人材を増やします。そしてこの場に集う企業・学生がコラボレーションし、チューターになることで次世代の地域参画意識を育成します。（2017年度多摩市若者会議のアイデアをプロジェクト化したもので、クラウドファンディングで資金調達し、拠点開設作業中）

#### ② 「未知スタンプ」を介した地域内人的ネットワークづくり

##### ○「未知スタンプ」カードのイメージ

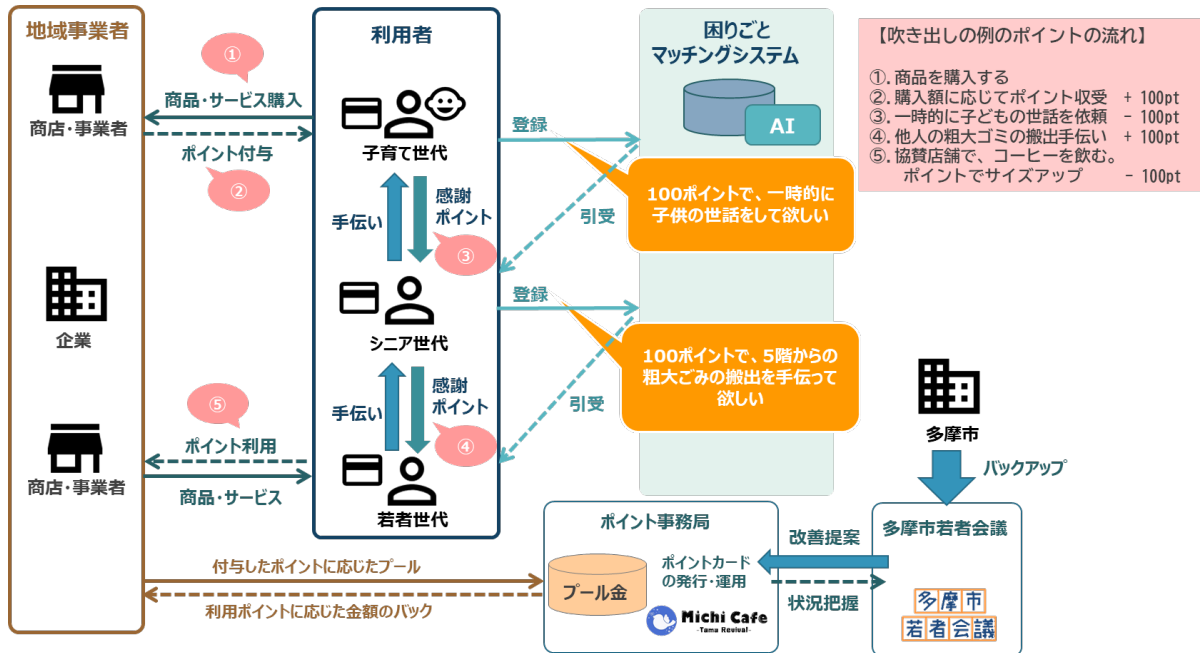


○「未知スタンプ」プログラムの全体イメージ(例)



「多摩トーク」から生まれた地域課題解決施策や多摩市若者会議が運営するイベントに参加することで、未知スタンプを押下します。地域の商店や事業者は、来店客の未知スタンプ数(レベル)に応じて特典を提供します。このスタンプカードの存在が、地域住民にとっては地域活動への参加動機となり、商店・事業者にとっては顧客獲得のツールになり、地域社会構成メンバーの皆にメリットも享受できる仕組みとする事を狙っています。

③ 困りごととマッチングシステムによる共助の仕組み化と感謝ポイントの授受による地域内経済活動の活性化を通じた「誰一人取り残さない」地域づくり



一人一人の困りごとと地域のリソースを地域全体でシェアし、AI によって適した解決相手に結びつける「困りごとマッチングシステム」を追加導入します。困りごと解決の対価として、協賛店舗での商品やサービスの購入で付与された「未知ポイント」を相手に支払います。解決した人は、貯めたポイントを使って協賛店舗で商品購入に利用することも、自身の困りごとの解決を別の他者に依頼することもできます。協賛店舗は、付与時に現金をプールし、利用されたポイント分に応じた現金がバックされます。

このように未知ポイントの授受が感謝の恩を贈り合う地域通貨の役割を果たします。またマッチングシステムが地域の細かな困りごとを広く拾える縁結びの機能を果たし、感謝の想いを域内消費に変換する地域経済の活性化と、きめ細かい共助の輪が形成されることを期待しています。

## 2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

### ① 多摩市の高齢化状況

高齢化率(平成30年12月1日現在)		
多摩市	28.1%	出典:多摩市オープンデータから算出(多摩NT外含む)
全国	28.4%	出典:総務省「人口推計」(速報値)

多摩市は一見それほど高齢化が進んでいる様に見えませんが、多摩ニュータウンは地区ごとに同時期に開発された大規模開発団地が立地する為、地区ごとに見ると、だいが高齢化が進んでいる状況にあります。

### ○地区別の高齢化状況(高齢化率 45%以上の地区)とエレベータ設置状況

順位	地区	人口		高齢化率	入居開始時期	エレベータ設置状況
		全年齢	65歳以上			
1	愛宕 3 丁目	810	473	58%	昭和47年	都賃貸(中層全7棟中、6棟EV無、1棟EV有)
2	諏訪 5 丁目	680	343	50%	昭和46年	都賃貸(中層全15棟EV無) (人口データには近隣商業地区と医者村含む)
3	和田 3 丁目	1035	519	50%	昭和47年	都賃貸(中層全15棟EV無) (人口データには戸建て9棟とアパート1棟含む)
4	聖ヶ丘 2 丁目	1856	929	50%	昭和58年	公団分譲(中層11棟・低層5棟全てEV無)、公団賃貸(中層2棟EV無) (人口データには戸建て多数、高齢者向け賃貸住宅3棟含む)
5	豊ヶ丘 5 丁目	1331	652	49%	昭和51年	公団分譲(中層全23棟EV無)、公団賃貸(高層2棟EV有)
6	豊ヶ丘 4 丁目	696	340	49%	昭和51年	公団分譲(中層全4棟EV無)、公団賃貸(高層6棟EV有) (人口データには近隣商業地区含む)
7	愛宕 2 丁目	906	438	48%	昭和47年	公社分譲(中層14棟、高層1棟全てEV無)
8	貝取 5 丁目	588	280	48%	昭和51年	公団賃貸(中層全10棟EV無)、都営(中層全3棟EV有)
9	鶴牧 4 丁目	764	361	47%	昭和57年	公団分譲(中層17棟、低層16棟全てEV無)
10	諏訪 4 丁目	2038	942	46%	昭和46年	都賃貸29棟(中層27棟EV無、2棟EV有) (人口データには民間分譲マンション2棟、民間賃貸マンション1棟、戸建て24棟含む)
11	永山 4 丁目	3062	1380	45%	昭和46年	公団賃貸(中層全57棟EV無、高層全7棟EV有)

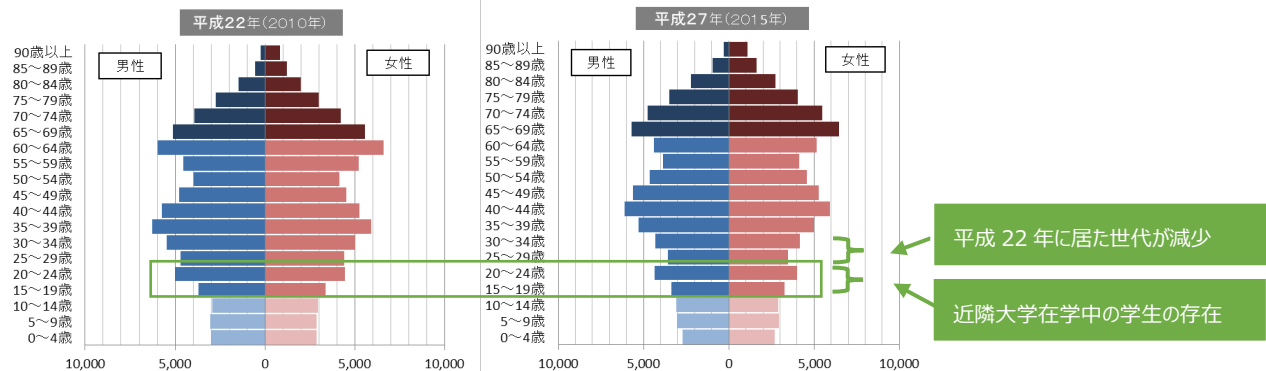
人口データ出典：多摩市オープンデータ(H30.10.1)から算出、多摩 NT 外の「和田(百草団地)」も高齢率 52%だったが割愛  
 入居開始時期出典：UR 都市機構『多摩ニュータウンの住宅建設資料集 2005』

エレベータ設置状況：多摩市若者会議独自調査

高齢化率 45%以上の地区の建物を調査したところ、ほとんどの集合住宅にエレベータが設置されておりませんでした。H29 年 3 月多摩市空家等実態調査報告書によると、同地区の空家率は約 5~9%であり、エレベータの無い中層棟の上層階に居住する高齢者も多いものと考えられます。2 人に 1 人が高齢者であり、**地区ごとの自治会や団地管理組合レベルではサポートできる範囲に限界**があります。

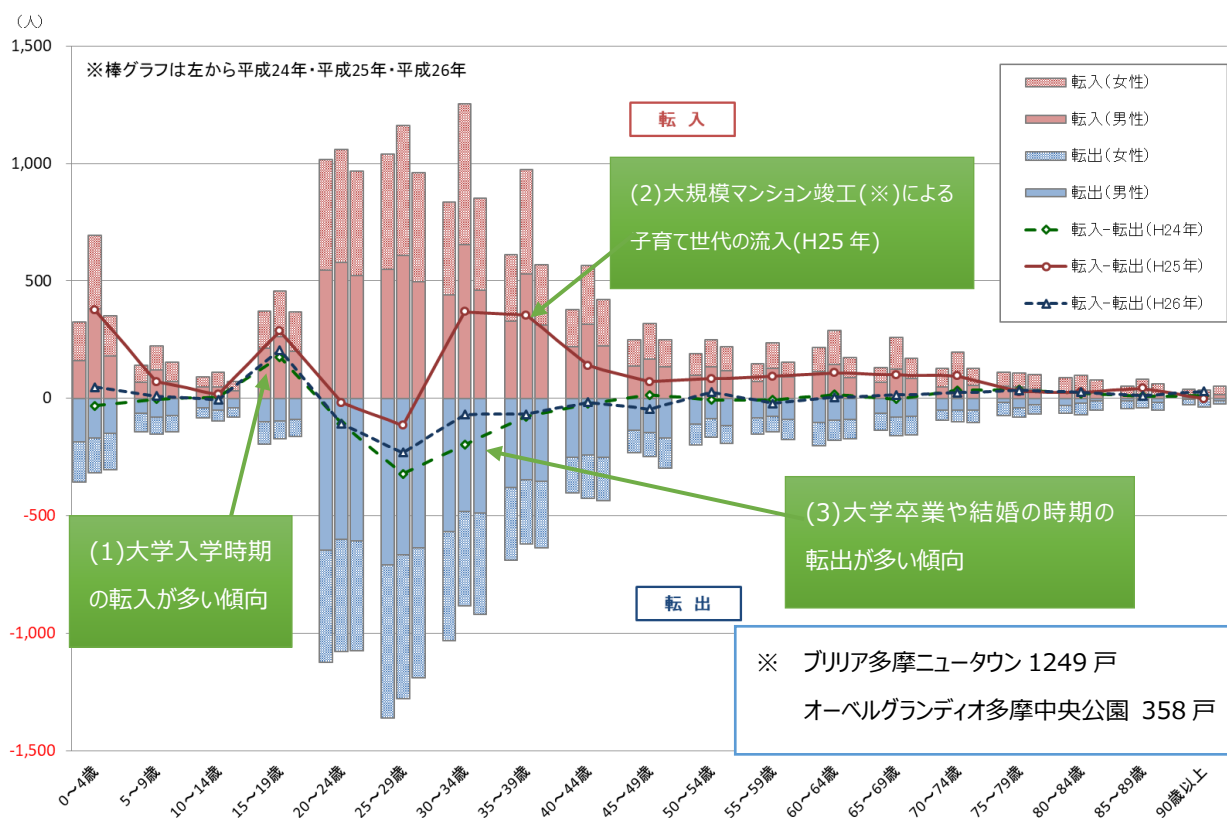
### ② 多摩市の若者・子育て世代の減少状況

#### ○多摩市人口ピラミッド(平成 22 年、27 年国勢調査)





## ○多摩市の年齢階級別 転入・転出の状況(平成 24～26 年)



出典：総務省 住民基本台帳人口移動報告

多摩市人口ピラミッドと転入・転出データから、上記グラフ(1)～(3)の吹き出しの顕著な傾向が確認できました。

多摩市若者会議のこれまでのワークショップ(のべ 400 人参加)では、若者・子育て世代から、**多摩の大学生と多摩の企業をマッチングする就活イベントが無い、都心の職場までの通勤時間が長い、共働きにくい(通勤時間がネック)、親元から遠く子育てのサポートが得られない**などの課題が挙げられました。これらが、25～39 歳の転出の一因になっているものと考えられます。一方、環境に対しては前向きな意見が多く、新築マンションには子育て世代(30～44 歳)が転入していることから、上記課題の解決が転出の歯止めになるものと考えます。

### ③ ボランティア活動の課題

多摩市や多摩ニュータウンは元々地域活動が盛んな地域ですが、運営メンバーの高齢化や参加者の固定化など**今後のボランティア活動を継続していくための担い手の確保の課題**が挙げられました。

### ④ 解決策

高齢者の課題と子育て世代の課題は共にサポートし合えるものが多いと考えられますが、それらを繋ぐ仕組みがありません。多摩市に立地している企業は世界的に活躍している企業も多く、大学生や若者世代との接点がない事が問題と考えられます。私たちのアイデアは、地元の企業・商店・事業者・教育機関なども含めた**地域社会の構成メンバーの皆が、自身の提供できることを提供し、支え合う事を可能にするマッチングの仕組み(システム・ルール)、対話の場(未知カフェ)での地域課題解決の企画検討、次代の担い手づくり、地域活動を間接的にサポートする仕組みとしてのスタンプカードプログラム(未知スタンプ)、地域の支え合いを 1:1 だけでなく、複雑に支え合う仕組みを支えるコミュニティ通貨に相当するポイントプログラム(未知ポイント)**をつくり、地域課題を街全体で解決する仕組みをつくるとともにその仕組みがあることを街の魅力としようとするものです。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

#### ① 街づくり拠点「未知カフェ」整備による新企画と人材育成の場づくり

##### ○「未知カフェ」の拠点整備

- ・内装・設備：約 215 万円をクラウドファンディングによる資金調達済。他に寄付も合わせ、必要資金確保済み。  
若者会議メンバー & SNS 等で募集したメンバーで地域の工務店のアドバイスを得ながら、DIY 中心で内装作業中。2019 年 2 月オープン予定。
- ・家賃・光熱費：2020 年 10 月末まで、合同会社 TAO から支援頂ける予定。  
それ以降は、カフェ事業、拠点の貸し出し、その他収益で自立を目指します。

##### ○「未知カフェ」における新しい企画づくりと人材育成

- ・地元立地事業者との協働  
約 10 事業者に拠点開設後のコラボレーション企画に向け、会話の場を設けて頂ける事の承諾を頂いています。このうち、電鉄会社とのコラボレーション事業については既に準備に着手しており、第 1 弾の企画を 2019 年 2 月に実施予定です。今後、採用活動に繋がる企画も含め対話を進めていきます。
- ・多摩トーク  
拠点開設後の 2019 年 3 月を目標に第 1 回「多摩トーク」を開催します。「多摩トーク」から生まれた地域課題解決策やイベントの実施時期は同年 4 月末を目標とします。多摩市若者会議の参加者のネットワークの他、協働予定の地域コミュニティの地域貢献活動に興味のある方達との接点を生かし参加者を募ります。

#### ② 「未知スタンプ」プログラム構築とネットワークづくり

##### ○ルールづくり、プログラム参加事業者との調整

- ・2019 年 1 月上旬までに「未知スタンプ」のルールの原案をつくり、1 月以降に開催される地域事業者の各コミュニティで意見を求めながら、3 月末までルールのブラッシュアップを続けます。運用開始は多摩トークから生まれた地域課題解決策の実施と同時(2019 年 4 月末)を目標とします。

##### ○カード製作

- ・家庭用プリンターやラミネーターなどを使い手作ります。「未知カフェ」でカード作りイベントを開催し、地域の方との交流やスタンプカードの広報の場とします。

##### ○広報ツール

- ・ウェブページおよび SNS アカウントを 2019 年 4 月中旬までに用意し、多摩市若者会議メンバーにて運用します。ウェブページの製作にあたっては、多摩市若者会議メンバーの IT エンジニアが技術支援をしながら制作し、若者会議コアメンバー内で運用体制を構築します。

#### ③ 「困りごとマッチングシステム(仮称)」・「未知ポイント」構築による地域社会づくり

2019 年 5 月から「多摩トーク」、多摩市若者会議のワークショップ、各地域コミュニティ、有識者、「未知スタンプ」プログラム参加事業者との意見交換等を行い、アイデアをブラッシュアップし、2019 年 11 月末目標で運用ルールと IT システムの要件定義を行います。要件の定義にあたっては、以下の専門家にアドバイスを依頼します。

- ・困りごとへの対応のルール ⇒ 多摩市役所の各関係部署、  
協働予定の地域コミュニティに参加されている看護・介護専門家
- ・法律・資金の管理運用 ⇒ 協働予定の地域コミュニティに参加されている弁護士・会計の専門家
- ・IT システム ⇒ 多摩市若者会議メンバーの IT エンジニア

○未知スタンププログラム参加事業者の募集について

2019年8月時点でのアイデアをPR資料にまとめ、2019年9月から各事業者への参加呼び掛けを開始します。参加呼び掛けにあたっては、多摩トーク・多摩市若者会議の参加者、協働関係にある事業者・コミュニティのネットワークの他、多摩市とのパイプを生かします。

○ITシステムの開発・運用について

2020年6月の運用スタートを目標とします(開発期間6ヶ月)。開発リソースはボランティア(人的ネットワークを生かし募集)、運用費用は手数料から賄う(人的リソースは未知スタンプ押下によるボランティア)を基本と考えていますが、ボランティアのみではリソース不足も考えられる為、PR資料完成(2019年9月予定)次第、支援企業探しの活動を行います。

○マッチングシステムへのAI技術の採用について

単純に公表された困りごとについて利用者が能動的に手をあげるだけでなく、**AIによる自動マッチングによりプッシュ通知等で近くの適した人にシステム側から解決を依頼**することも検討します。

また**マッチング結果の学習から、目の前の困りごとと認識していない本質的・公益的な困りごとの発見・解消も研究**します。例:同じ地区で荷物運びの依頼が多い場合、アラートを出す。結果、依頼の原因となっていた段差の解消を地域に呼びかける等

○「未知ポイント」プログラムへのブロックチェーンの採用について

パブリッククラウドの「ブロックチェーン」サービスを利用する事を想定しています。**ブロックチェーンを採用することで、開発コスト低減とポイントの流通を可視化**し、蓄積データを元にした研究やサービス向上に活用します。

○「教育」を通しての、高校生以下世代への地域活動参加の啓蒙

多摩市若者会議では、これまで市立中学校とタイアップして、総合教育の授業として、中学生版若者会議(街づくりをテーマとしたワークショップ+実際のイベント開催)の開催を支援しています。また、地域事業者による、子供向けの職業体験イベントKAOFESにも参加しています。これらの活動を継続・発展として、未知プラットフォームの関連分野として、金融教育、主権者教育、メディアリテラシー教育、プログラミング教育などの実施を検討します。

○近隣大学在学中の学生へアプリ試行導入とインセンティブとなるポイント付与など半強制的な巻き込み

P5の人口ピラミッドにあるように、近隣に大学が立地することから学生人口が多い状況です。この層に積極的に未知ポイントを付与し、地域で消費したり、この仕組みの実践者になってもらうことから始めます。

地域の側に見守りやイベントに学生が増えた印象をもたらすことで協力事業者の増加やオープンデータ等関連データの流通量を増やしたいと思わせる機運を高めます。

【全体スケジュール】

